

# フレッシュマンコーナー

## 3 年目にむけて

宇部市医師会 ひうら整形外科クリニック

日浦 泰博

2015 年 7 月 10 日に宇部市厚南に整形外科クリニックを開業し、四苦八苦しながら何とか 2 年目を迎えることが出来ました。開業当初は右も左も分からず無我夢中で、来て下さる患者さん第一の診療に心がけ、勤務医時代は気にもとめてなかったレセプトを穴のあくまでチェックし、職員に気を遣い、借金の返済と売り上げをにらみながら超低空飛行から少しずつ上昇し、何とか水平飛行になってきたなど感じている今日この頃です。

開業医になってまず思うことは、勤務医時代に比べ患者さんとの距離が本当に近くなった事です。毎日外来をしていると、週に何度も来られ挨拶をしてくれる患者さんもおられれば、本当に些細な事から延々と自分の生活や身の回り全ての事を細かく話す方や、どこかで仕入れた医学知識を事細かに聞かれる方（よって雑誌や TV の医学番組や情報はコマメにチェックしなければ…です）など、勤務医時代には早々にスルーしていた患者さんの話も、これは大事な仕事と割り切って傾聴し、できるだけ丁寧に答えるようにしています。

当初は不手際な診察の合間にそれも加わると、それだけでへとへとに疲れて「もう勘弁して」と思いましたが、最近はそれも結構楽しく聞けるようになり、来て下さるだけでもありがたく感謝しています。

また、勤務医ではある程度開業医で取捨選択され、治療法が手術するしか残されていない患者さんが多く、また救急の重症例では治療の説明と患者さんの納得もほぼパターンが決まってくるのに対し、開業医の場合一から軽度～重度の様々なレベルの患者さんを、また、他院をめぐりめぐって試しに来られる方もおられ、どの程度まで説明してどの程度の治療を希望されているのか患者さんの背景も考え合わせると非常に多種多様です。最初は「どうして欲しいのかはっきり言ってよ」と心の中で叫んでましたが、最近はそれも何度も時間をかけてゆっくり診ていけばどんな治療を希望され納得されるのか、手術までしたいのかなどが段々とわかるようになり、急を要す病状でなければそれで良しと思うようになりました。



また、勤務医時代は他の何人かの医師やスタッフと一緒に診てカンファレンスや手術は行われるので、今考えるとそれが総合病院の高い医療の質とレベルにつながっていたと思いますが、開業医は基本一人で診て診断治療を進めていくため、これは本当に非常に怖い所です。自分のちょっとした見落としやミスは患者さんのみならず自分の医院にも致命傷になってしまい、慣れてきたこれからも特に注意しなければと思っています。

趣味のランニングも開業当初はとでも集中して走る余裕もなく、出場大会も減ってすっかり走力も落ちてしまいましたが、最近は休日には大分長く走れる余裕もできて、今年 5 月の連休には萩往還マラニック 250 km の部に 3 年ぶりに出場し、全盛期の記録には遠く及びませんでした。見事トップでゴールし、久しぶりの好成績で一歩は復活出来たかなと少し自信になりました。ただ、オルト会と宇部市医師会で誘われて 20 年ぶりに始めたゴルフは全く上達する気配がなく、こちらもう少し頑張らねばと 1 回 / 月のラウンド前には打ちっぱなしの練習に励みますが、どうも自分には合っていないのかもしれない。

これから 3 年目に向かい、まだまだ開業医としてはヒヨッコですが、開業当時の「初心忘るべからず」、そして患者さんファーストの心構えで日々努力してまいりますので宜しくお願い致します。



## 表紙写真の募集

山口県医師会報の表紙を飾る写真を随時募集しております。

アナログ写真、デジタル写真を問いません。

ぜひ下記までご連絡ください。

ただし、山口県医師会会員撮影のものに限ります。

〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 山口県医師会広報・情報課

E-mail : [kaihou@yamaguchi.med.or.jp](mailto:kaihou@yamaguchi.med.or.jp)